アトボシハマキ

広葉樹のハマキムシ（幼虫）．最大長約25mm．体は背中が灰色で腹面と尾部は白っぽい．背中には不鮮明な白い斑点がある．頭は赤茶色で，黒い斑紋がある（小さなときは全体黒色）．６月と８月に発生する．

リンゴでは害虫とされている．

１．終齢幼虫，体長25mm．1989/6/29.

２．写真１の巣，1989/6/29.

３．雌成虫，体長9mm.

１～３．美唄市，ウダイカンバ．３は１を飼育したもの.

【学名】 *Hoshinoa longicellana*

【分類】 チョウ目（Lepidoptera），ハマキガ科（Tortricidae）

【分布】 北海道，本州，四国，九州；朝鮮半島，中国，ロシア.

【特徴】

幼虫は終齢で体長25mm．中齢では頭部，前胸背楯，胸脚は黒色，体は暗い黄緑色．終齢では頭部は褐色で多数の黒斑を持ち，前胸背楯は黒色で前半中央が褐色，胸脚は黒色あるいは褐色で先は黒色，体は灰色で腹面と尾部は白っぽい.

カクモンハマキの仲間の幼虫に似るが頭楯（口のすぐ上）が白いことと，刺毛基板がすべて白っぽいことで区別できる．巣の中の葉が枯れているのも特徴.

【生態】

幼虫は食葉性．主な食樹はナラ類で，他にクリ，ナシ，リンゴ，サクラ，バラなどにもつくという．北海道ではウダイカンバ，

シラカンバからも採れた.

年１～２回発生，若齢幼虫で越冬といわれる．北海道の低地では中～終齢幼虫が６月と８月に採れているので，年２化であろう．幼虫は新梢先端の葉を綴って巣を作り，成長するに従い巣に次々と葉をかぶせていく．このため，老齢幼虫の巣の中には初めの頃の巣が枯れて包まれている.

【被害】

リンゴなど果樹では害虫とされているが，他の樹木では発生量はごく少ない.

【文献】

1957．江崎悌三ほか．原色日本蛾類図鑑（上）： I-XIX，1-318，pls 1-64．保育社，大阪.

1975．Yasuda，T．The Tortricinae and Sparganothinae of Japan (Lepidoptera：Tortricidae) (II)．Bull．Univ．Osaka Pref．，ser．B，27：79-251.

1977．奥野孝夫，田中寛，木村裕．原色樹木病害虫図鑑：I-VIII，1-365，pls 1-64．保育社，大阪.

1982．井上寛ほか．日本産蛾類大図鑑．Vol．1：1-968；Vol．2：1-556，pls 1-392．講談社，東京.

北海道立林業試験場・緑化樹センター

アトボシハマキ hamaki/atobosi/kaisetu.htm

「文章」原秀穂，北海道立林業試験場，1991/4/8.

1yochu.JPG，1yochusu.JPG，1seichu1.JPG

「写真１～３」原秀穂，北海道立林業試験場，1989.

写真個体の同定．那須義次博士，大阪府病害虫防除所，1991頃.